

世界メジャーと同様な企業環境の構築

令和5年10月24日

黒田インターナショナル コンサルティング

黒田 毅

企業内容と財務体質、資本力、利益性、技術開発力、効率性、先端性において、世界メジャーとの対等な企業構築の模索は、日本企業において、その発想を得ないものである。しかし世界経済は世界メジャーにおいて支配されているのであり、それら企業基準における自己構築は、現実のグローバリゼーションという現実において、行う意味と価値は存在すると考える。

これらは財務体質や企業の内容において、必ずその同等な自己を要求されるのである。世界メジャーにおいて人材やソフト資産など、これらにおいて優れることが彼らの優位性を構築しているのであり、これらへの理解はそれら現実の構築を模索できるのである。

これらは世界基準が先端性に限定せず、企業内容においてその正しい理解を求めるべきなのである。

これらは過去、トヨタの改善や看板システムへの学習を世界が求めたように、彼らの有する企業内容への深い理解や考察を再度提案するものである。

また彼らの企業経営が、MBAによるものであることは理解しなくてはならない。

世界における拠点や、その子会社の環境など、企業の就業環境や、社員待遇などにおいても、同じ現実を自己に求めることは可能なのである。

これらは世界基準をそれら世界メジャーが有することにおいて、企業の内実への理解を求めるべきなのである。

これらは事故企業のさらなる改善や向上を模索することができることであり、これらは、企業の安定性や利益性などにおいて、その向上を求めることができるのである。

彼らの現実が年功序列でなく、能力主義であることは理解しなくてはならない。西洋における教育から与えられる彼らのリーダーたちは、優れた人格性や能力を事故に要求されるのである。

